



26:12 イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。【主】は彼を祝福された。

26:13 こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった。

26:14 彼が羊の群れや牛の群れ、それに多くのしもべを持つようになったので、ペリシテ人は彼をねたんだ。

26:15 それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に父のしもべたちが掘った井戸を、すべてふさいで土で満たした。

26:16 アビメレクはイサクに言った。「さあ、われわれのところから出て行ってほしい。われわれより、はるかに強くなったから。」

26:17 イサクはそこを去り、ゲラルの谷間に天幕を張って、そこに住んだ。

26:18 イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘られて、アブラハムの死後にペリシテ人がふさいだ井戸を掘り返した。イサクは、それらに父がつけていた名と同じ名をつけた。

26:19 イサクのしもべたちがその谷間を掘っているとき、そこに湧き水の井戸を見つけた。

26:20 ゲラルの羊飼いたちは「この水はわれわれのものだ」と言って、イサクの羊飼いたちと争った。それで、イサクはその井戸の名をエセクと呼んだ。彼らがイサクと争ったからである。

26:21 しもべたちは、もう一つの井戸を掘った。それについても彼らが争ったので、その名をシテナと呼んだ。

26:22 イサクはそこから移って、もう一つの井戸を掘った。その井戸については争いがなかったの、その名をレホボテと呼んだ。そ

して彼は言った。「今や、【主】は私たちに広い所を与えて、この地で私たちが増えるようにしてくださった。」

主に従う者は祝福されますが、それが非難の標的になることもあります。神を信じない人々は、クリスチャンが苦難のときは「信じているのに意味がない」と言ったり、また祝福されると「いい気になって」などと言ったりするものです。イサクもそのような扱いを受け、実際に大損害を被りました。生きるのに必要な水を奪われたのです。

しかし彼はあくまでも争わず新しい井戸を発見し、しかもまた再三奪われてもまた発見し、最後にはそれゆえに彼の地境が広がるようになりました。ゲラルもシテナも「争い」という意味ですが、レホボテとは「広い地」と言う意味で、今もその地にはいくつもの井戸が存在しています。彼が最終的には大きな恵にあずかったことがわかります。

なぜイサクはそこまで温厚・謙遜でいられたのでしょうか。それは第一に、主の祝福を信じ続けていたからです。「主に愛されている」という自己像を持つ人は、人と争い勝つ必要を感じないものなのです。みな愛されているのですから、そのような人間関係を身に付けましょう。

第二に父アブラハムの信仰です。アブラハムの時代の井戸は、アビメレクとの約束でアブラハムのもとなり、それゆえにアブラハムは多くの贈り物さえしたのです。それを今回奪われたのですが、実はアブラハムはそこに柳の木を植えて礼拝の場所としたのです。彼にとって重要なのは井戸よりも、神の存在と守りだったということです。その信仰が子のイサクにも継承されていたのです。柳の木がイサクへの証でした。主の導きとそれを信じた先人（親や先駆者、またはリーダーなど）の証しは非常に重要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

